



会報 電子版「ピペッツ」発行について

松丘会臨床検査科支部
支部長 舟田和幸

昨年、学園と同窓会および会員を繋ぐパイプとなる会報「ピペッツ」の配布をとりやめてホームページに掲載することをお知らせしましたが、本年度より電子版「ピペッツ」の掲載が始まります。

発行部数の増加により業者に発行作業を委託しておりましたが、当初編集して、必要部数を印刷、宛名印刷した封筒を用意し、会報を折って封筒詰めして、封をして投函する作業を中央検査部で役員他集まっていた頃が懐かしく思い出されます。

「ピペッツ」発行をホームページに変更する大きな要因は経費節減、会報担当役員の負担軽減と内容の『鮮度』であります。今後タイムリーな投稿が、色あせずに掲載できることになり、また限られた同窓会予算の中でホームページが維持されることとなります。これは同窓会の趣旨にもかなう最もよい選択だと思っています。また、インターネットの普及も大きな要因の一つで、PC、携帯端末でのホームページ閲覧は当たり前のものになり、日常生活に欠かすことのできないものにまで成長と普及が進んでいます。何らかの方法で会員のほとんどの方々にホームページを見て頂ける環境になっていることと思います。

2005年に公開された同窓会のホームページも、2010年にリニューアルし、利便性を考え携帯サイトからもアクセス可能となりました。いつでもどこでもホームページをご覧いただける環境になりました。

電子書籍時代到来、電子版「ピペッツ」を是非ご愛読ください。

即戦力となる臨床検査技師の育成を目指して

1 期生 小郷 正則

臨床検査科は、1973年4月川崎医療短期大学の開学と同時に看護科と共に開設され、37年余りの歴史を有する学科として、平成22年3月末までに1,750名の卒業生を世に送り出しています。本学科は開設時より実践教育を軸とし、即戦力となる臨床検査技師を社会に送り出すため徹底した基礎学習に加え、約2年近くの臨床（臨地）実習を行っています。これは今なお本学科の最大の教育的特徴であり、今後も内容を充実させ、継続すべきものと考えています。

開学当初は、臨床検査技師という職業そのものの認知度がかなり低く、教職員総動員の募集活動をしても入学定員を満たせず、いかにして知名度を上げるかについて



後列：所司、黒川、佐藤、山本、下田、通山、森谷、小郷、鐵原、泉
前列：土井、永瀬、近末、岸本、中原

試行錯誤の連続でした。時を経て本学科の卒業生が附属病院で実務経験を積み、臨床検査技師として自信を深めるにつれ、実習指導者としての自覚と使命感も高まりました。それとともに、「即戦力となる臨床検査技師の育成」に関する相互理解が進み、目標実現に向けて前進し始めたように思います。その結果、就職先の病院検査室等から高い評価を受けることが多くなり、やがて企業などの各方面からの求人も次第に増え、本学科が優れた臨床検査技師を社会に送り出す臨床検査技師教育施設としての評価も上がってきたように思います。

本学科は、開設以来、国家試験全員合格を目指

して学生と教員が全力で取り組んでいます。初めて卒業生を出した昭和51年度（1976年）から約10年間は国家試験に全員合格し、現在も常に全国平均よりはるかに高い合格率上げています。これを支えているのは、学生と教員、特に学年担任との強い信頼関係の中での種々の対策の賜物だと思います。具体例として、臨床実習における専門分野の徹底した実践指導や卒業生による国試直前重点解説講座、さらに専任教員等による出題傾向分析とそれに基づく実力・模擬試験の実施、

担当教員による弱点補強のための問題解説などを挙げることであります。また、近年は、成績が伸び悩む学生に対して、生活相談（指導）や個別学習指導などを充実させ、

健康的な生活習慣の定着、学習意欲の向上を進めるためのミニチューター制を設け、組織的に対応し効果をあげています。

現在、臨床検査科の教員は20名です。そのうち専任教員11名、併任教員9名で、医学、基礎専門分野および専門分野のほとんどを担当し、非常勤講師への教育依存度は以前に比べるとかなり少なく、教育目標を達成するには望ましい傾向と考えています。今後も、即戦力となる臨床検査技師の育成を実現するため、臨床指導者と密に教育連携をとりつつ教育を進めたいと考えています。

（川崎学園だより2010年11月号 No.377より）

川崎医療短期大学同窓会 松丘会臨床検査科支部 平成 22 年度 総会（議事録）

日時：平成 22 年 11 月 27 日（土）15：00～15：30

場所：川崎医療短期大学 体育館 101 講義室

出席者：53 名

議題 1. 平成 21 年度事業報告

1) 学生との交流会

12 月 12 日、ボーリング大会および学生との交流会が参加者 32 名で行われた。

2) 国家試験対策

1/27～1/30 の期間に、病理学、血液学、免疫学、臨床化学について国試対策講義が行われた。

3) 中四国学会時の同窓会の開催

11 月 1 日、香川県支部主催のもと行われた。

4) 同窓会ホームページについて

新しいホームページにリニューアルされたので見ていただきたい。

5) 各期の同窓会開催への援助

4 期、26 期、33 期、34 期の各期へ援助した。

6) その他

特になし

議題 2. 平成 21 年度決算報告

資料参照

議題 3. 平成 22 年度事業計画

1) 学生との交流会

ボーリング大会および学生との交流会（11 月予定）

2) 国家試験対策（1 月予定）

3) 中四国学会時の同窓会の開催（島根県支部）

4) 同窓会ホームページについて

HP 作成費：20 万円（初年度のみ）

ドメイン所得費：約 2 万円（初年度のみ）

サーバ保守費：6 万円（毎年更新）

HP アップ費：（随時）

以上、HP 管理費として 400,000 円を計上することとした。また、ホームページのリニューアルに伴い、従来の PIPETTS 出版を取りやめ、ホームページへ移行、掲載することで合意された。

5) 各期の同窓会開催への援助

5 期、34 期予定

- 6) 35周年記念事業について
今回の総会および35周年記念講演会を行うこととなった。
- 7) その他
特になし

議題 4. 平成 22 年度予算案
資料参照

議題 5. その他

- 1) 会則の一部改正
(事業)、(会費)について
(事業) 1) 会員名簿の編集発行・・・を「HPの維持管理」
2) 会誌 (PIPETTS) の発行・・・を「会員の動向調査」
(会費) 「入会后 10 年毎に会費を徴収する」・・・を「入会后 10 年目、20 年目に会費を徴収する」
以上のように改正することで承認された。
- 2) その他
特になし

以上、各議案は本総会にて承認された。

川崎医療短期大学(松丘会)臨床検査科支部 会計報告(21年度)

自 平成21年4月1日

至 平成22年3月31日

(収入の部)

項目	予算額	決算額	差異	摘要
入会金	310,000	300,000	▲ 10,000	35期生(60名分)
同窓会費	1,016,000	300,000	▲ 716,000	
新入会費	310,000	300,000	▲ 10,000	35期生(60名分)
10年毎会費	706,000	0	▲ 706,000	
助成金(本部より)	170,000	0	▲ 170,000	
寄付金	0	0	△ 0	
預金利子	2,000	648	▲ 1,352	
雑収入	0	71,085	△ 71,085	学生交歓会残金
前期繰越金	2,252,372	2,252,372	△ 0	
収入合計	3,750,372	2,924,105	▲ 826,267	

(支出の部)

項目	予算額	決算額	差異	摘要
会議運営費	290,000	36,603	▲ 253,397	
代表者会運営費	100,000	18,635	▲ 81,365	
理事会運営費	70,000	2,328	▲ 67,672	
部局会運営費	70,000	15,640	▲ 54,360	国家試験対策
各種委員会費	50,000	0	▲ 50,000	
事務費	310,000	0	▲ 310,000	
通信費	100,000	0	▲ 100,000	
消耗品費	50,000	0	▲ 50,000	
振込手数料	10,000	0	▲ 10,000	
印刷費	150,000	0	▲ 150,000	
会誌発行費	900,000	0	▲ 900,000	
印刷費	600,000	0	▲ 600,000	
発送費	300,000	0	▲ 300,000	
慶弔費	30,000	0	▲ 30,000	
援助金	720,000	350,000	▲ 370,000	
卒業時援助金	30,000	30,000	△ 0	35期
各期援助金	300,000	90,000	▲ 210,000	4期,33期,34期
地域支部援助金	90,000	30,000	▲ 60,000	
在校生援助金	300,000	200,000	▲ 100,000	学生交歓会準備金
旅費交通費	50,000	0	▲ 50,000	
雑費	50,000	0	▲ 50,000	
ホームページ管理費	100,000	20,000	▲ 80,000	
積立金特別会計繰出	50,000	0	▲ 50,000	
予備費	1,250,372	0	▲ 1,250,372	
支出合計	3,750,372	406,603	▲ 3,343,769	

繰越金(収入合計-支出合計) 2,517,502

積立金特別会計(収入の部)

項目	予算額	決算額	差異	摘要
一般会計から繰入金	50,000	0	▲ 50,000	35周年記念事業準備金
利息	500	802	△ 302	*入金忘れの為繰り入れ0円
前期繰越金	253,331	253,331	△ 0	
合計	304,331	254,133	▲ 50,198	

積立金特別会計(支出の部)

項目	予算額	決算額	差異	摘要
積立金	0	0	△ 0	
合計	0	0	△ 0	

積立金繰越額(積立決算-支出決算) 254,133

川崎医療短期大学(松丘会)臨床検査科支部 予算(22年度)(案)

自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

(収入の部)

項目	予算額	前年度予算額	差異	摘要
入会金	295,000	310,000	▲ 15,000	36期生(59名分)
同窓会費	1,285,000	1,016,000	△ 269,000	
新入会費	295,000	310,000	▲ 15,000	36期生(59名分)
10年毎会費	990,000	706,000	△ 284,000	11,12,13,14,15,21,22,23,24,25期
助成金(本部より)	170,000	170,000	△ 0	
寄付金	0	0	△ 0	
預金利子	1,000	2,000	▲ 1,000	
雑収入	0	0	△ 0	
前期繰越金	2,517,502	2,252,372	△ 265,130	
収入合計	4,268,502	3,750,372	△ 518,130	

(支出の部)

項目	予算額	前年度予算額	差異	摘要
会議運営費	290,000	290,000	△ 0	
代表者会運営費	100,000	100,000	△ 0	
理事会運営費	70,000	70,000	△ 0	
部局会運営費	70,000	70,000	△ 0	
各種委員会費	50,000	50,000	△ 0	
事務費	460,000	310,000	△ 150,000	
通信費	200,000	100,000	△ 100,000	
消耗品費	50,000	50,000	△ 0	
振込手数料	10,000	10,000	△ 0	
印刷費	200,000	150,000	△ 50,000	
会誌発行費	300,000	900,000	▲ 600,000	形式変更案内号
印刷費	200,000	600,000	▲ 400,000	
発送費	100,000	300,000	▲ 200,000	
慶弔費	30,000	30,000	△ 0	
援助金	720,000	720,000	△ 0	
卒業時援助金	30,000	30,000	△ 0	
各期援助金	300,000	300,000	△ 0	
地域支部援助金	90,000	90,000	△ 0	中四学会時同窓会(香川)
在校生援助金	300,000	300,000	△ 0	学生交歓会、国試対策
旅費交通費	50,000	50,000	△ 0	
雑費	50,000	50,000	△ 0	
ホームページ管理費	400,000	100,000	△ 300,000	HP新設
積立金特別会計繰出	50,000	50,000	△ 0	
予備費	1,918,502	1,250,372	△ 668,130	
支出合計	4,268,502	3,750,372	△ 518,130	

積立金特別会計

項目	予算額	前年度予算額	差異	摘要
一般会計から繰入金	100,000	50,000	△ 50,000	35周年記念事業(21,22年度分)
利息	1,000	500	△ 0	
前期繰越金	254,133	253,331	△ 302	
合計	355,133	304,331	△ 50,802	

臨床検査科支部総会だより

臨床検査科支部総会に参加して

6 期生 吉藤(旧姓：福井) 彩子

2010年11月27日は広島県東部地区学会に行くべきか、同窓会に行くべきか、少々迷いましたが「やっぱり同窓会だ。」ということで参加を決めました。

当日は快晴で附属病院の銀杏並木も短大の紅葉した木々も優しく迎えてくれました。

会場の体育館に入ると、卒業以来約30年ぶりの明美ちゃんにも会えて、他の同級生ともお互いニックネームで呼び合いますので学生時代に戻ったようです。全体の参加者は53名で、その中の17名が6期生でした。総会は司会の大倉さんと武田議長の進行で滞りなく終了し、いよいよ講演会です。

まずは「近未来の遺伝子医療と臨床検査」と題して熊本大学医学部保健衛生学科准教授の奥宮敏可先生(6期生)の講演です。多分同級生の多くがこの講演を聞くのを楽しみにして参加したことでしょう。遺伝子検査の基礎から最新の遺伝子医療までとても解りやすく講演して頂きました。HER2/FISH や EGFR 遺伝子変異解析など当たり前のように検査依頼があり、その結果が治療に直結している現在の癌治療の進歩には、先生のような多くの研究者の方々の努力があってこそと改めて感じ、また奥宮先生の類まれなる探究心と行動力に感服しました。でも笑顔は奥宮君のままでした。

1期生の後藤幸策先生の講演では、川崎医療短期大学創学時から高知医科大学を経て、榊原病院の技師長として赴任され定年を迎えられるまでの様々なエピソードを話して頂きました。また後藤先生のアルトサックスの生演奏に癒されたひと時でした。

和久庄屋で行なわれた懇親会には41名が参加しました。かつてお世話になった三戸先生、土井先生、山本先生、黒川先生、鐵原先生も出席してくださり、とても和やかな雰囲気でおいしいお料理とお酒をいただきました。短大の学生の頃、雲の上のような存在の先生方でしたが、今となっては私達とそんなに年も変わらず、若くしてとてもしっかりと指導してくださっていたのだなあと当時を思い出しました。同級生、先輩方、後輩達と話をしましたが、それぞれいろいろな事があったにもかかわらず、味わい深く年齢を重ね『いい顔』でこの日を迎えられたことは素晴らしいことだと思いました。

今回の総会、講演会を企画運営されました舟田支部長はじめ多くの役員の皆様方、本当にありがとうございました。とても楽しい時間を過ごすことができました。そして次回は、もっと多くの同窓生の皆様にお会いできることを楽しみにしています。その日まで、お元気で!!



検査科支部総会・講演会に参加して

19 期生 柴田 厚司

平成 22 年 11 月 27 日に、川崎医療短期大学体育館で、平成 22 年度臨床検査科支部総会と第 4 回講演会が開催され、参加してきました。

総会の参加者はおよそ 50 名位来られていたように見え、まず平成 21 年度に行った事業と決算の報告と、今年度の事業予定内容と予算の説明がありました。その中で、新しく始める事業があり、それは同窓会ホームページに、今まで会員に発行されていた会報「ピペッツ」を掲載することです。ホームページに「ピペッツ」を掲載することにより、簡単に家庭や職場で多くの方に見ていただくことが出来るという説明がありました。

引き続いての講演会は、35 周年記念事業として開催され、熊本大学医学部保健衛生学科准教授の奥宮敏可先生（6 期生）と、心臓病センター榊原病院前技師長の後藤幸策先生（1 期生）のご講演でした。奥宮先生は、「遺伝子検査の基礎と将来展望」という演題で、分子生物学における最近の進歩と診断および治療への応用についての講演でした。勉強不足の私には難しい部分もありましたが、とても興味深い講演でした。

後藤先生は、「技師生活 34 年」と題して、高知医大や榊原病院での検査部立ち上げの苦労話や、退職後に始められたボランティア活動の話、そして、講演の締め、後藤先生ご自身がアルトサクスの演奏を 3～4 曲披露して頂き、心温まる感動的な締めくくりになりました。

ここで、総会・講演会は閉会になり、この後は、場所を移して親睦会が行われました。参加者は 40 名位おられたようで、川大中央検査部の大倉さんの司会進行により、テンポよく会が進行していきました。短大からは、小郷先生・土井先生、川大中央検査部の黒川技師長と前技師長の山本誠一先生、短大検査科准教授の鐵原先生など、多数のご来賓の方がおられました。そして、料理を頂きながら参加された方々がスピーチをされていました。特に 1～10 期の卒業生を中心に、多くの方が近況報告などを話されていました。また、あちこちで久しぶりに逢った先生方を中心に卒業生と酒を酌み交わしながらの会話がはじまり、大いに盛り上がっていました。そして盛況のうちに懇親会も閉会いたしました。会員の皆様も、次回の総会には参加されてみてはいかがでしょうか。懐かしい顔にも逢え、なかなか良いですよ。



同窓会だより

島根支部同窓会に参加して

30 期生 三島 夏希

平成 22 年 11 月 6 日中国四国医学検査学会終了後に合同同窓会を開催させて頂きました。

私は今まで学会終了後に同窓会が開催されているのは知っていたのですが、参加したことがなくどうなるだろうと不安でした。けど実際始まってみれば懐かしい先生方、また先輩方に会うことができ楽しい一時となりました。それと同時に卒業して五年目の私達にいろんな話をして頂きとても勉強になりました。ご参加頂いた皆様ありがとうございました。



15 期生同窓会を開催して

15 期生 藤原 伸子



2011 年 1 月 8 日(土)、15 期生の同窓会を、岡山駅西口近く「Ryoutei」で開催しました。次の日に新年互礼会をひかえていた小郷先生、当日臨床微生物学会であったにもかかわらず時間を空けて下さった下田先生、そして 19 名の同窓生が集まりました。返信はがきが、締め切り過ぎても 4 名しか届かず、淋しい同窓会になるのかと思っていたら、「今頃来るうー」と我が子もあきれほど遅れての返信ばかり・・・(これが 15 期生だ)。しかし、2 名の尋ね人以外ほとんどのはがきを受け取ることができ、開

催前の幹事としては、ほっ。当日は、ぞくぞく集まる顔触れの変わっていないこと！先生も昔のことをよくもまあ覚えているものだと感心するくらい、昔話に大いに盛り上がり、解散は日付が変わっていました。私達を教えてくれた先生の年齢が、ちょうど今の私達だと聞き、まだまだ頑張らなければと思ったのは私だけでしょうか？上と下に挟まれた中間管理職でジレンマを感じている人、子育て真っ最中の人、さまざまな道で同窓生は頑張っていました。年明け早々で、入試シーズンの時期に開催してしまい欠席になってしまった皆さん、すいません。次が 20 年後だと両先生は「よぼよぼなんで」と言われたので、次回はもう少し早めに開催できればと思っています。楽しい時間をありがとうございました。

卒後 10 年

27 期生 泉 明佳

卒業生からのメッセージを書いてと頼まれて、改めて思うと 2002 年に卒業してからかれこれ 10 年近く経っていることに気付いて、そんなに長い間仕事してたかな？と思っています。

仕事の面では、特に狙った訳でもなく、たまたま就職した内科研究室の仕事は検査部とは全く違って最初は戸惑っていましたが、3 年を過ぎたあたりからようやく仕事を頼んでくる Dr. の求める事が理解できるようになってきて、主な業務内容としては肝炎ウイルスの遺伝子解析や、患者さんのデータをまとめて統計解析をしています。また、最初は部長に言われて嫌々書いた論文も何とか一人で形にできる程度にはなり、とりあえず学会で発表したりしながら 2009 年には日臨技の研究助成も受け、一人前とはまだまだ言えないもののせめて半人前くらいには成長できているといいなあ、と思いながら現在も実験と研究の毎日を送っています。

日常生活では幸か不幸か、就職して最初に住んだ所から飲食店街がとても近い場所にあり、美味しいご飯と美味しいお酒を求めて日々うろうろしています。ええ、面白い所ですよ。岡山表町。

そんなこんなで、26 期で入学したものの 27 期で卒業したり、職場の忘年会で酔っぱらって次の日に遅刻したり、他にも諸々とありますが、色々と適当に生活しているのに見捨てない友人、家族、職場の同僚やたくさんの人に感謝しながら、これからも毎日を楽しんでいきたいと思います。